

第4学年 国語科学習指導案

日時 平成18年11月2日(木)

対象 4年1組 男15名 女13名 計28名
4年2組 男15名 女13名 計28名

指導者 1組 佐藤 充
2組 下坂 純子

- 1 単元名 材料の選び方を考えよう
教材名 「アップとルーズで伝える」
「4年3組から発信します」 (光村図書4年下「はばたき」)

2 単元について

(1) 教材について

学習指導要領第3学年及び第4学年の「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる」である。同じく、「書くこと」の目標は、「相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などを工夫して文章を書くことができるようにするとともに、適切に表現しようとする態度を育てる」である。本教材の「読むこと」においては、「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと(イ)」「目的に応じて内容を大きくまとめたり、必要なところは細かい点に注意したりしながら文章を読むこと(オ)」が、「書くこと」においては、「相手や目的に応じて、適切に書くこと(ア)」「書く必要のある事柄を収集したり選択したりすること(イ)」が、学年の目標に直結する指導内容である。

本単元「材料の選び方を考えよう」は、対比・まとめなど、段落相互の関係に気をつけることで内容を把握しやすくなることを知り、読み方に生かすとともに、伝えたいことと伝える方法について興味をもつこと、学校や地域にある物について知らせるために取材し、相手と目的に応じて選材して分かりやすく伝えることをねらいとしている。

本教材「アップとルーズで伝える」は、テレビや新聞などを通して私たちに届けられている映像や写真が、送り手の目的や意図によって取捨選択されていることを発見する教材である。テレビや新聞は児童にとっては身近で、特にテレビは情報を取り入れる一番の手段であり、興味をもって学習できる内容である。しかしメディアを通じて受け取っている情報が、一定の価値判断や意図に基づいて取捨選択されていることに気づいている児童は少なく、テレビの流す情報がそのまま真実だと思い込んでいる児童が多いはずである。本教材の学習を通して、情報は取捨選択して伝えられているのだということについて新しい発見をし、さらに興味や関心を深めていくことができると考える。また「アップとルーズで伝える」は「初め」「中」「終わり」という典型的な説明文の構成をもっている。写真と文章を対応させて読みながら、段落と段落が結びついてまとまりを構成していることがわかり、さらに対比的な関係をつかみながら、文章全体の姿を読み取ることができる教材である。「4年3組から発信します」は、集めた様々な情報の中から相手や目的に合うものを選ぶということを学習し、情報活用の力をつけることができる。自らが情報の発信者となることで、情報の収集・取捨選択などを体験することによって、情報の発信・受信にあたっての適切な態度を養うことができる教材である。

(2) 児童について

児童はこれまでの「読むこと」の学習において、3年上「ありの行列」で「段落」の概念を初めて学び、まとまり(段落)に気をつけて読み、内容をとらえる学習をした。3年下「すがたをかえる大豆」では、接続語や指示語に気をつけながら読み、一つの段落ごとにそれぞれ一つの事柄が書かれていることを学習してきた。4年上「かむ」ことの力では、それぞれの段落に書かれている内容がお互いに関係し合っ、大きなまとまりを作っていることを学んだ。「書くこと」の学習においては、3年下「食べ物がかせになるう」で、本などで調べた情報をまとめて書く学習を行った。4年上「新聞記者になろう」では、本やインタビューから得た情報を、割り付けを考えて相手に分かりやすくまとめて書く学習を経験している。

児童はこれらの学習を通して、「読むこと」では、段落の中で中心となる語や文に目を向けて文章を読み進めていくことができるようになってきた。しかし、「初め」「中」「終わり」のまとまりに分けることはできるものの、全体をまとまりごとにとらえたり段落相互の関係を考えたりする力は十分とはいえない。「書くこと」では、自分の伝えたいことを書こうとする意欲はあるものの、それを伝える語彙が少なかったり、文章構成が分かりにくかったりして、相手に伝わりにくい文章になってしまうこともしばしばである。取材した材料を選材するという学習は初めてで、相手や目的に応じて選ぶことが難しい児童も多いと思われる。

自力解決の内容を伝え合い、互いに学び合うという活動については、自分の考えをもちそれを進んで相手に伝えようとする意識は高いのだが、相手の話をよく聞いて、いいところや似ているところを見つけ、学び合おうとする意識をもてない児童も少なくない。課題や発問、一人学びの内容によっては、自分の考えをもてないで終わってしまったり、とりかかるまでに時間がかかってしまったりする児童も数名いる。

(3) 指導について

指導にあたって、単元の進め方については、まず初めに単元全体のねらいを知らせるとともに、学習のゴールが「4年3組から発信します」で、学校や地域にあるものについて取材したことを相手に分かりやすく伝えるように書くこととし、そのことをめざして学習を進められるよう、学習計画を立てる段階を大事に、学習の見通しをしっかりとめたい。

書いてある内容を読む段階では、初めて耳にする専門的な用語については、言葉だけの理解にとどまらないよう、意味調べだけでなく具体物や挿絵・資料を提示して理解を深めていく。段落ごとに書かれている内容をまとめる学習では、アップとルーズの長所と短所が各段落にそれぞれ書かれていることをおさえ、繰り返し出てくる言葉、指示語や接続語、文末表現に着目させ、中心文や中心語句を探すポイントとさせたい。また、まとめた要点を用いて小見出しを付け、対比による段落相互の関係に気づかせていきたい。

一人学びでは、長所と短所が書かれている文にサイドラインを引く活動、読んだ内容をまとめる活動、段落ごとに小見出しを付ける活動を行う。学び合いにおいては、自力解決で個々がまとめたことを、ペア学習で深めさせたい。その際選んだ理由を、根拠を教材文から明らかにして伝えることができるよう、話型などの指導を行い、自信をもって話すことができる雰囲気づくりに努めたい。話し合ったことを生かして全体で深める場では、自分の考えと比べながら聞き、それぞれの考えを生かして全体のものにできるようにしたい。

3 単元の目標

(1) 主目標

対比・まとめなど、段落相互の関係に気をつけることで内容を把握しやすくなることを知り、読み方に生かすとともに、伝えたいことと伝える方法について興味をもつ。

学校や地域にある物について知らせるために取材し、相手と目的に応じて選材して分かりやすく伝える。

(2) 観点別目標

伝える目的や相手に応じて、情報の材料や選び方や表現方法が異なっていることに気づき、自分が表現していくときに役立てていこうとしている。(関)

取材した事柄を相手に応じて分かりやすく書いている。(書ア)

相手や目的に応じ、必要な材料を集めたり、選択したりして書いている。(書イ)

それぞれの段落が文章全体の中でどんな働きをしているかをとらえている。(読イ)

アップとルーズの働きについて、写真と対応させながら中心となる語や文をとらえて読んでいる。(読オ)

文章全体の中での、それぞれの段落の役割を理解する。(言オ(イ))

4 単元の指導計画・評価計画 (全17時間)

主な学習活動(時数)	評価規準(方法)	具体的評価規準	
		おおむね満足できると判断する視点	努力を要する児童への支援の手立て
1 - 「アップとルーズ」について知っていたことや初めて知ったことを発表し、学習の見通しをもつ。 (1)	関 教材文を読み、感想を話したり、学習の見通しをとらえたりしている。 (発言・ノート)	初発の感想を書き、これからの学習の見通しをもとうとしている。	初めて知ったことや不思議に感じたこと、調べてみたいことなど、感想を書く観点を与える。
1 - 新出漢字の練習と難語句の意味調べをする。 (1)	言 新出漢字を筆順に気をつけて書いたり、難語句の意味を調べたりしている。(発言・ノート)	漢字を正しく読み書きしたり、意味のわからない言葉を調べたりしている。	漢字の読み書きを正しく視写させる。指定した難語句の意味を調べさせる。
1 - 教材文を3つのまとまりに分け、学習計画を立てる。(1)	読 文章の内容から段落のまとまりを考えている。(発言・ノート)	自分なりの考えで、内容のまとまりごとに3つの意味段落に分けている。	今までに学んだ段落や文章構成について思い出させ、それをもとに意味段落を考えさせる。
2 - アップとルーズの映し方の違いと、筆者からの問題提起について読んでまとめる。(1)	読 アップとルーズの映し方の違いと、筆者からの問題提起についてまとめている。(発言・ノート・自己評価)	アップとルーズの映し方の違いと、筆者からの問題提起について具体的に説明している文を探し、正しく書きまとめている。	写真と本文を照らし合わせながら、アップとルーズの映し方を理解させる。
2 - アップとルーズのそれぞれの長所と短所を読んでまとめる。(1) 1組本時	読 アップとルーズのそれぞれの長所と短所を理解している。(発言・ノート・自己評価)	アップとルーズのそれぞれの長所と短所を、大事な言葉を落とさずに書いている。	サイドラインを引いたところや繰り返し出てくる言葉に着目させ、まとめさせる。
2 - 筆者の伝えたいことを読んでまとめる。(1)	読 段落を読み、筆者の伝えたいことを読んでまとめる。(発言・ノート・自己評価)	筆者の伝えたいことを、大事な言葉を落とさずにまとめている。	中心語句や文末表現に着目させ、筆者が伝えたいことをつかませていく。
2 - ・各段落に小見出しをつけ、段落のまとまりを考えて大見出しをつける。 ・文章全体の構成をとらえる。 2組本時(1/2)	読 3つの意味段落のつながりを考え、文章全体の組み立てを理解している。(発言・ノート・自己評価)	各段落に小見出しをつけ、段落と段落のつながりを考えて文章構成図を書いている。	各段落に書かれていたことや要点を確認させ、「小見出しの決まり」の板書を使って小見出しを考えさせる。

3 - 「4年3組から発信します」を読み、活動の見通しをもつ。(1)	関 教材文を読み、調べてみたいことを話したり、学習の見通しをとらえたりしている。(発言・ノート)	調べてみたいことを考え、これからの学習の見通しをもち、活動に意欲をもっている。	詳しく知りたいことや不思議に感じたこと、調べてみたいことなど、題材を選ぶ観点を与える。
3 - 教科書作例の、活動の順序やいいところを見つけ、自分の活動計画を立てる。(1)	読 教科書作例の、メモと作品の差や、相手に応じた書き方を見つけている。(発言・ノート)	教科書作例の、メモと作品の差や、相手に応じた書き方を見つけ、いいところを書いている。	メモと作品を比べて読ませたり、「アップとルーズで伝える」の教材文を読み直させたりして、いいところを見つけさせる。
3 - 自分のまとめ方の完成イメージをもち、発信する題材を決める。(1)	書 誰に何をどのように伝えたいのか、自分の考えをもっている。(発言・ノート)	誰に何をどのように伝えたいのか、自分の考えを書いている。	友だちの考えを聞く場を設定したり、教師が例を示したりしながら、題材を選ぶことができるようにする。
3 - 本・インターネット・インタビューなど取材の仕方を思い出し、自分の取りあげる題材について取材する。(1)	書 様々な取材方法を使って、選材ができるくらいの材料を集めている。(ノート・自己評価)	様々な取材方法を使って、選材ができるくらいの材料を集めて書いている。	これまでに学習した取材の方法を使って調べさせ、情報をたくさん集められるようにする。
3 - 割り付けをしたり記事を書いたりする。(1)	書 相手や目的に応じて写真や情報を選び、割り付けをしている。(割り付け図・自己評価)	相手や目的に応じて写真や情報を選び、割り付け図を書いている。	集めた情報の中から、伝える相手に分かりやすく、自分が一番知らせたいものを選ばせる。
3 - 下書きをして、互いに読み合う。(1)	書 相手や目的に応じて、分かりやすい言葉で記事を書いている。(発言・下書き用紙・自己評価)	伝える相手にふさわしい記事を、分かりやすい言葉で書いている。友だちの作品のいいところや直した方がいいところを教えている。	伝える相手を確認め、分かりやすい文章になっているか、読みたくなる内容かを考えさせる。
3 - 清書し、仕上げる。(1)	書 友だちの意見も取り入れて、相手や目的に応じた記事を書いている。(清書用紙・自己評価)	友だちの意見も取り入れて、相手や目的に応じた記事を書いている。	友だちの記事のいいところや教科書作例をもう一度読ませ、分かりやすい記事を書くことができるようにさせる。
3 - 友だちと読み合い、自己評価・相互評価をする。(1)	書 自分の作品の選材・分かりやすさについて振り返り、友だちの作品のいいところについても感想を伝える。	自分の作品を読み返し、選材と分かりやすさについて評価している。友だちのいいところも見つけて伝えている。	記事にした材料が、相手が知りたい内容であったか、分かりやすく書けたかを相互評価・自己評価させる。

<p>4 - 「選んで伝える」を読み、単元のまとめ・振り返りをする。(1)</p>	<p>関 教材文から学んだことをもとに、相手や目的に応じて適切に選材する必要性をとらえている。(発表・ノート)</p>	<p>教材文から学んだことをもとに、相手や目的に応じて適切に選材する必要性について考えたことを書いている。</p>	<p>教材文や友だちの作品を読み直させ、相手や目的に応じて選材することの必要性を考えさせる。</p>
---	---	---	--

5 . 本時の指導 (1 組) 5 / 1 7 時間

(1) 目標

アップとルーズのそれぞれの分かることと分からないことをまとめることができる。

(2) 仮説との関連

< 手立て 1 に関わって >

- ・段落の要点をまとめることができるようにするために、一人学びでは、段落の中心文を見つけさせ、アップとルーズの分かることと分からないことが書いてある文にサイドラインを引かせる。また、学び合いでは、ペア学習をしたことをもとに発表させ、表にまとめさせる。

< 手立て 2 に関わって >

- ・段落の中心文を見つける方法を理解させるために、教材文を提示し、確かめ合いながら表にまとめていくようにさせる。
- ・学び合いの中で学習を深めるために、教科書の挿絵を拡大し、文章に照らし合わせながら確認していくようにする。

(3) 展開

段階	学 習 活 動 主発問 ・ 予想される児童の反応	教師の支援 (評価)
つ か む 5分	<p>1 前時の学習内容を想起する。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> アップとルーズのそれぞれの分かることと分からないことを読み取ろう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の壁面の掲示物を利用して確認させるようにする。 ・アップとルーズの映し方の違いについて確認する。
ふ か め る	<p>3 課題解決の見通しを持つ。</p> <p>(1) 学習範囲を音読する。(一斉読み、指名読み) (P 2 0 のはじめ ~ P 2 2 L 2) 段落</p> <p>(2) 写真の小見出しを考える。 これらの写真に小見出しをつけるとすれば、どんな小見出しがいいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ の写真は、「大喜びしている選手」です。 ・ は、「試合が終わった後の応援席」です。 <p>4 . 課題を解決する。</p> <p>(1) 課題解決のための着眼点を考える。 アップの映し方で、分かることが書かれている中心文はどこですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールを決めた選手が走っている様子が分かります。 ・ユニホームは風をはらみ、口を大きく開けて、全身で喜びを表しながら走る選手の様子です。 ・細かい部部の様子です。 <p>アップの映し方で、分からないことが書かれている中心文はどこですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応援席の様子です。 ・走っている選手以外の様子です。 ・うつされていない部分です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉読みでは、本時の学習範囲を確認するため全員で音読させる。指名読みでは、アップとルーズの分かることと分からないことが書かれている大体の場所を確認させる。 ・児童から出された小見出しを採用する。 ・教科書にサイドラインを引かせる。 ・「細かい部分の様子」が前のいろいろな様子をまとめている言葉だということに気づかせる。 ・「しかし」の前後に分かることと分からないことが書かれていることに気づかせる。 ・分かることのように、まとめている言葉に着目させる。 ・確認できたことを、表にまとめ

	<p>(2) ルーズの分かること、分からないことについて一人学びをする。</p> <p>(3) 学び合いをする。 ルーズの映し方で、分かることは何ですか。 ・大小の旗やたれまくや立ち上がっている観客、手を上げる選手たち、おうえんした人たちと書きました。 ・広いはんいの様子とかきました。 ルーズの映し方で、分からないことは何ですか。 ・各選手の顔つきや視線、気持ちです。</p> <p>5 課題についてまとめる。 今日学習したことをまとめると、どんなまとめになりますか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>アップは、分かることが細かい部分の様子で、分からないことはうっさされていない部分の様子です。 ルーズは、分かることが広いはんいの様子で、分からないことは各選手の顔つきや視線、気持ちです。</p> </div> <p>6 段落と 、 段落との関係を捉える。 段落の中心文はどれですか。 ・「テレビでは・・・放送をしています。」です。</p>	<p>させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段落も 段落も同じ文章構成になっていることを確認する。 ・サイドラインを引かせ、表にまとめさせる。 ・見つけられない児童には、机間指導をしながら、ヒントを与える。 ・一人学びしたことを隣同士で交流しあう。(ペア学習) ・一人学びで交流した内容を、全体で話しあう。 ・隣の人の考えも発表させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>おおむね満足できると判断する視点 アップとルーズのそれぞれの分かることや分からないことをまとめることができたか。 (発言・学習シート)</p> </div> <p>【支援】 サイドラインを引いた部分や表にまとめたことをもとにして書かせる。 ・「このように」に着目させ、 をまとめた段落であることを確認する。</p>
<p>ま と め る 5分</p>	<p>7 学習のまとめをする。 (1) まとめの音読をする。(一斉読み) (2) 本時の学習を振り返り、自己評価する。</p> <p>8 次時の学習の見通しを持つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今日、学習したことをはっきり読んで再確認させる。 ・学習の成果を認め、満足感を味わわせる。 ・写真のアップとルーズについて学習することを確認する。

(4) 評価規準

【読む能力】

アップとルーズのそれぞれの分かること、分からないことを読んでまとめている。

(5)板書計画

			写 真	写 真	
			ルーズ	アップ	段落
		テレビでは目的に応じて切りかえて放送する	広いはんいの様子 よく分かる	細かい部分の様子	分かること
			でも	しかし	
			各選手の顔つきや視線、気持ち	うつされていない部分	分からないこと

学びあいの仕方

課題

アップとルーズのそれぞれの分かることと分からないことを読み取ろう。

アップとルーズで伝える

中谷 日出

まとめ

アップの分かることは、細かい部分で、分からないことは、うつされていない部分です。

ルーズの分かることは、広いはんいの様子で、分からないことは、各選手の顔つきや視線、気持ちです。

5 本時の指導（2組） 7 / 17時間

（1）目標

文章全体の構成を考えるために、各段落に小見出しをつけることができる。

（2）仮説との関連

手立て1に関わって

- ・ 自分と友だちの考えを比べながら聞き、それぞれの考えを生かして全体のものにできるようにするために、一人学びでは、本文に戻って読んだり「小見出しの決まり」を使ったりしながら、自信をもって自分の力で小見出しを考えることができるようにする。学び合いでは、ペア学習を取り入れ、個々の学びを伝え合う活動の場とする。その際、根拠を明らかにして説明できるように、話型などの支援をする。

手立て2に関わって

- ・ 全体がどのような文章構成になっているのかをつかませるために、板書の図を使って確認する。児童の考えた小見出しも書き入れ、文章構成の大きなまとまりと段落相互の関係を視覚でとらえられるようにする。

（3）展開

段階	学習活動 主発問・予想される児童の反応	教師の支援（評価）
つかむ 5分	<p>1 前時の学習内容を想起する。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>全体のまとまりを考えるために、各段落に小見出しをつけよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 壁面掲示を利用し、学習内容を確かめさせる。 ・ 「小見出し」という語句を確認し、小見出しがあるとまとまりを捉えやすいことを想起し、本時の学習につなげる。
ふかめる	<p>3 課題解決の見通しをもつ。</p> <p>（1）全文を音読する。 （指名読）</p> <p>（2）課題解決のための着眼点を考える。</p> <p>段落の写真の題は何でしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ルーズでとったサッカー場全体の様子です。段落の小見出しを考えましょう。 ・ 「ルーズについて」「ルーズの説明」も同じように考えて、表に書きましょう。 ・ ルーズについて、全体の様子がルーズアップについて、選手の様子がアップアップとルーズの説明、筆者からの問題「初め」のまとまりに大見出しをつけましょう。 ・ 「アップ」と「ルーズ」とは何か <p>4 学習課題を解決する。</p> <p>（1）一人学びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ～ 段落の小見出しを考えて表に書きましょう。 ・ アップの長所と短所 ・ ルーズの長所と短所 ・ 目的に応じた使い分け ・ 新聞でも使い分けしている ・ 相手や意図に応じて選ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 段落毎に書かれている内容を確認しながら音読を聞くようにさせる。 ・ は全体で確認する。 ・ 前時までにとまとめた要点を使って小見出しをつけられることを知らせる。 ・ 段落は、写真につけた題を小見出しにできることに気づかせる。 ・ 表にとまとめたことを全体で確認する。 ・ 自分で考えた小見出しが「小見出しの決まり」に合っていればよいこととする。 ・ 写真と対応して読むことを思い出させる。 ・ 「小見出しの決まり」ヒントを用意しておく。 ・ 「短く・内容に合っている」の小見出しの決まりに沿って考えることができるよう、掲示を利用したり机間指導したりする。

<p>ふ</p> <p>か</p> <p>め</p> <p>る</p> <p>35分</p>	<p>(2) 学び合いをする。 表に書いたことを、ペア学習で確かめましょう。 (ペア学習)</p> <p>・ぼくは「 」という小見出しを考えました。わけは「 ~ 」という言葉が大事だと思うからです。</p> <p>確かめたことをもとに、全体で話し合しましょう。 (一斉学習)</p> <p>・ぼくは「 」という小見出しを考えました。隣の～さんは、ぼくとは違って「 」という小見出しを付けていました。</p> <p>5 課題についてまとめる。 話し合ったことをもとに、自分の小見出しをまとめましょう。</p> <div data-bbox="432 775 893 1117" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>ルーズの様子 アップの様子 アップとルーズとは何か アップの長所と短所 ルーズの長所と短所 目的に応じた使い分け 新聞でも使い分けしている 相手や意図に応じて選ぶ</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・「学び合いの仕方」ヒントを用意しておく。 ・理由をつけて話すことができるよう声がけする。 ・お互いの考えた小見出しの、似ているところや違っているところを見つけさせる。 ・話し合いの進まないペアには話型に沿って話すことができるように支援する。 <p>・話し合ってまとめたことを板書し、確かめさせる。</p> <div data-bbox="1094 792 1484 936" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>短く内容に合った小見出しを考えて書いている。 (発言・ノート)</p> </div> <p>【支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各段落に書かれていたことや要点を確認させ、板書を使って小見出しを考えさせる。 ・友だちの付けた小見出しを参考にして考えさせる。
<p>ま</p> <p>と</p> <p>め</p> <p>る</p> <p>5分</p>	<p>6 学習のまとめをする。</p> <p>(1) まとめの音読をする。(一斉読)</p> <p>(2) 本時の学習を振り返り、自己評価する。</p> <p>7 次時の学習の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各段落の要点をはっきりと読んで確かめさせる。 ・学習の成果を認め、満足感を味わわせる。 ・次時は段落全体のまとまりを考えて構成図を書く学習をすることを確かめる。

(4) 評価規準

【読む能力】

文章全体の構成を考えるために、各段落に小見出しをつけることができる。

(5) 板書計画

アップとルーズで伝える

中谷 日出

課題

全体のまとまりを考えるために、各段落に小見出しをつけよう。

組み立て	大見出し	段落	要点
初め			
中			
終わり			

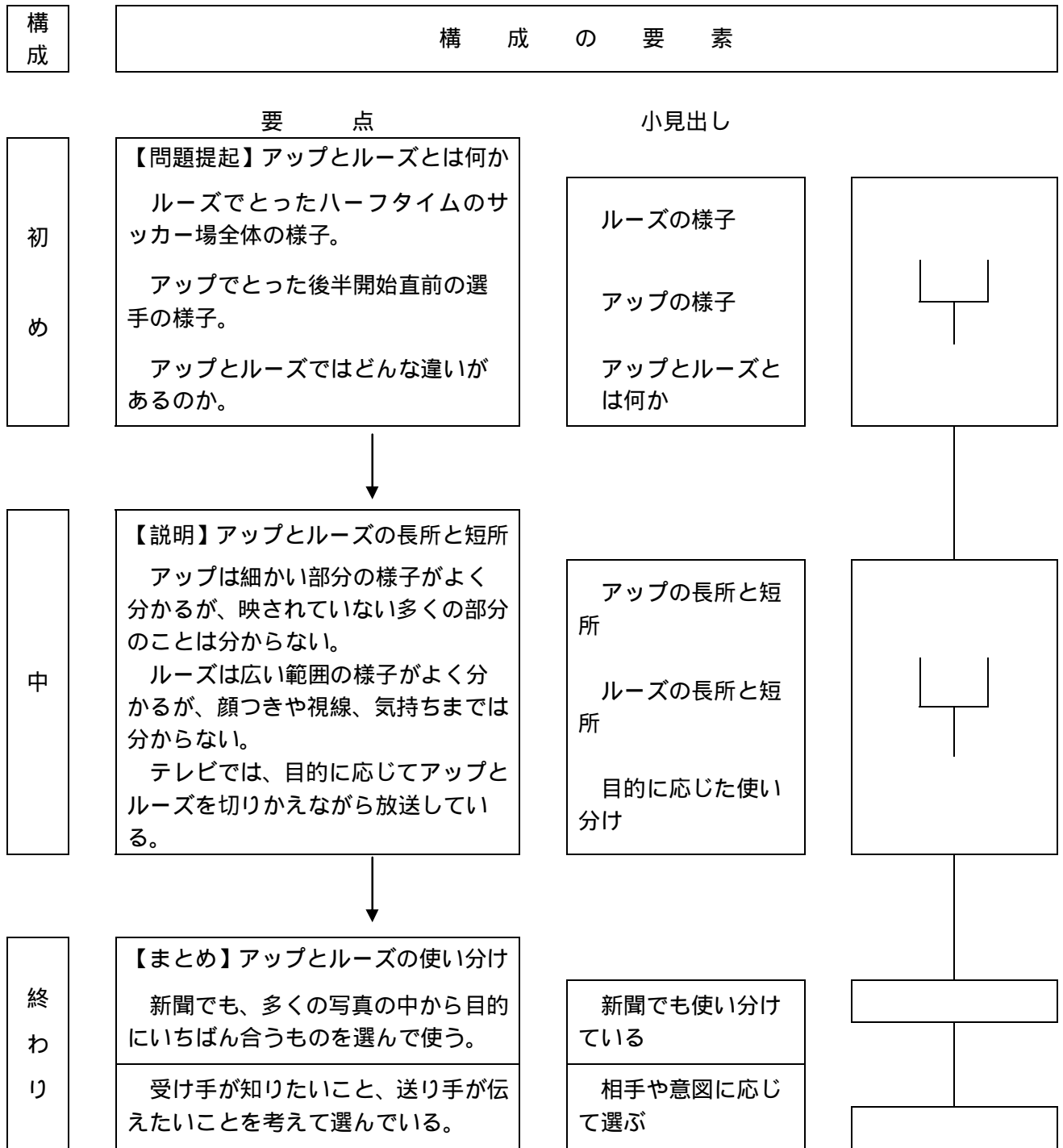
まとめ

ルーズの様子
アップの様子
アップとルーズとは何か
アップの長所と短所
ルーズの長所と短所
目的に応じた使い分け
新聞でも使い分けている
相手や意図に応じて選ぶ

小見出しの決まり

学び合いの仕方

(6) 教材分析図



【要旨】

アップには細かい部分の様子がよく分かるという長所があり、映されていない多くの部分のことは分からないという短所がある。ルーズには広い範囲の様子がよく分かるという長所があり、顔つきや視線、気持ちまでは分からないという短所がある。アップとルーズにはそれぞれ伝えられることと伝えられないことがあり、テレビでは目的に応じて切りかえて放送している。テレビでも新聞でも、相手や意図に応じてアップとルーズを使い分けたり、撮ったものを選んだりしている。